



Title	2019年度 意匠学会作品賞選考結果報告
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2020, 76, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76920
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2019 年度 意匠学会作品賞選考結果報告

2019 年度学会賞選考委員会

副委員長 大森正夫

受賞作品

前田博子氏

『見知らぬ女性がのこした空』『見知らぬ女性からのおすそわけ』

受賞理由

テキスタイルデザインを専攻する前田博子氏は、偶然の縁から面識がない女性の遺品である大量の布地を譲り受け、本作品を構想した。身近な家族や友人のために手作りの品となるはずだった布地には、前田氏と教え子たちの手によってイラストが施され、亡き女性が見ているであろう「空」に向けてインスタレーションとして展示された。その後、作品は前田氏の個展会場にて「おすそわけ」され、観覧者が自由に好きなだけ切り取って持ち帰るよう設定される（意匠学会大会パネル発表会場にて再現された）。

見知らぬ女性から前田氏を経て見知らぬ観覧者へと譲り渡されるメディアとしての布地は、従来からある商品としてのデザインや表現者個人としてのアート作品の枠組みを超えて、新しい表現の可能性を感じさせる。

これらの作品は、2019 年に開催された福井市美術館とアートベース金沢における「engage 衣服が記憶するわたしたちの過ごした時間」と題された 2 度の個展で発表された作品の一部である。前田氏はやや特殊な素材を使ったファッションデザイン領域での制作活動を経て、これらの個展では、本来ならば避けたい「衣服や布を切る」という行為の向こうに、切り取られた衣服や布地が他者の手によって畳んで持ち帰られ、意図を越えた所作を引き出すことによって、本来それらが持っていた物語の続きを委ねようとする。これも衣服や布地を大切にする行為にほかならず、「切る行為」が「つくる行為」以上の価値を生み出す可能性に期待する。

本作品は、「モノづくり」「コトづくり」「ヒトづくり」へとつながるデザインにおいては未知なる地平を切り開いており、意匠学会作品賞に相応しい作品として高く評価された。

選考経緯

本作品賞は 2019 年度大会においてパネル発表・展示された作品が対象であり、展示会

場であった滋賀県立大学交流センターにおいて面矢慎介選考委員会委員長の立ち合いの下、伊原久裕委員，川島洋一委員，益岡了委員，大森正夫委員（座長）により選考された。

パネル発表は7作品であり，それぞれの作品における位置付けが大きく異なる故に，単純な投票数による判断とはせず，個々の作品と展示発表についての評価を各委員が順次述べた上で，候補とすべき作品を選出する方法をとった。議論の結果，共通して高い評価を得たのは，作者のキャリアも作品分野も大きく異なる福本繁樹氏と前田博子氏の作品であった。しかし，福本繁樹氏は平成20年度に意匠学会作品賞を受賞している上に，今回の展示は集大成的な作品集であり，作品賞ではなく学会賞に相応しい業績として評価すべきであるとの意見が強い総意となった。

そこで，パネル発表での活動を高く評価するとともに今後の活動を期待し，前田博子氏の作品を2019年度の意匠学会作品賞として推薦することになった。この提案は2020年5月23日の第3回役員会に報告され承認を得た。